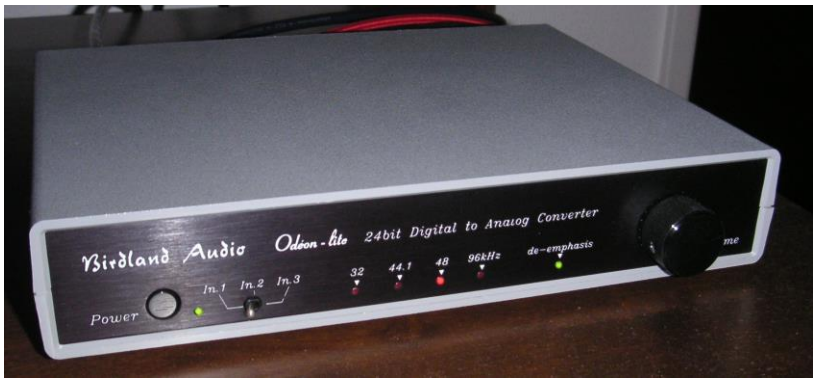
オーディオ実験室収載

USB-101 その後（3）
—DAC の選択—

これまでの USB-101 の評価では、すべてインフラノイズ社の DAC-1 と組み合わせてきました。そして DAC-1 のクロックは PLL を選択し、ABS-7777 でクロック制御されるか、USB-101 の内部クロックで制御されたクロックを DAC-1 のクロックと共有する方法で聴いてきました。
今回、DAC-1 以外の DAC との組み合わせではどうなるかということに注目してみました。使用するのは、Birdland Audio の Odeon Lite で DAC-1 導入前の常用機でした。発売当時は、ハイビットハイサンプリング処理の機能を有しながら価格的にも購入しやすいものでした。



さて、USB-101→Odeon Lite の音質ですが、おやっと思わせるもので Odeon Lite がこんなに良かったのかなというのが第一印象です。しかし、じっくり聴きこんでいくと、弦の艶やしなやかさ、楽器の分離などは USB-101→DAC-1 の場合よりランク落ちします。しかし、USB-101 と組み合わせることにより、今までの印象が変わりました。つまり、アラが出にくくなっているのです。USB-101 を通して精度の良い音楽情報が入力されると、このような DAC でもそれに応えてくれているということでしょう。
今回は、旧型の専用 DAC を使用しましたが、DAC 部分を分離して使用できる CD プレイヤー（自宅の DAC 部分が分離可能な旧型機は嫁入りしていきました）もありますので、PC 音源を USB-101 を通して既存の機器で楽しむ選択肢もあるかと思います。
これまで、スピーカーを替えたり、アンプを替えたり、ネットラヂオなど、音源を替えたりとしてきましたが、USB-101 は所謂相性というものを感じさせません。この点、通常のアクセサリーやケーブルなどと違った様相を見せてくれます。昔から、「色の白いは七難隠す」といいますが、色白の素肌美人のように、顔の造作の多少の難点は気に

ならなくなるようなものが、USB-101 の効果のように思います。

以上